



特集 **DXの推進**

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.52 September.2022

contents

.....
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印



machijiman

お問い合わせ先

昭和町風土伝承館杉浦醫院

所 在 山梨県中巨摩郡昭和町西条新田850

電 話 055-275-1400

HP <http://www.sugiura-iin.com>

開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで

休館日 土曜日、祝日、年末年始

入館料 大学生・大人一般200円 小中高校生100円



杉浦健造 博士

シリーズ
ま・ち・自・慢

Showa-Town

昭和町

昭和町風土伝承館 杉浦醫院

地方病115年の闘いの歴史を今に伝える

甲府盆地では、古くから腹部が異常に膨らむ原因不明の奇病「地方病」で、多くの人命が奪われてきました。

後に日本住血吸虫という寄生虫による感染症であることが判明したこの病気の研究と治療に生涯をかけた医師、杉浦健造、三郎父子の業績を顕彰し、地方病終息に至る先人の足跡を伝承していくため、昭和町は、江戸時代中期からこの地で開業してきた杉浦家の旧医院と家屋を保存し、地方病の資料館として公開しています。

地方病との闘いの歴史は、感染調査に奔走した保健所職員や、中間宿主であるミヤリガイ撲滅のため、総延長2 kmに及ぶ水路のコンクリート化事業を遂行した行政職員と、地域住民総動員による貝の採取や殺貝剤散布など、官民一体で一つの感染症を終息に導いた「協働の歴史」でもありました。

国の登録有形文化財となっている旧医院棟には診察室や薬棚が当時のまま保存されており、四季折々に赴きある日本庭園の池には地下水が導かれ、初夏にはホタルが舞います。

VOL.52 September, 2022 machijiman

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.52 September.2022

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.52 September.2022

まち自慢

昭和町

02 巻頭随想

「人が集い 和む 樹園共生都市 山梨市」の実現へ
山梨市長 高木 晴雄

04 市町村リレー

忍野村

08 苦言提言

歩くことのススメ
内閣府大臣官房審議官(防災担当)
上村 昇

09 特集「DXの推進」

10

特集1 「データ利活用基盤」の構築について

13

特集2 プライベート無線ネットワークによる身の丈スマートシティ

16

特集3 行政情報提供システムを使った取り組み(にっこりコール)について

19

特集4 ドローンを活用した地域物流効率化の取り組みについて

22 地域シンクタンク

24 市町村の元気印

26 自治 Q & A

29 市町村調査研究事業

32 がんばっていま～す。

34 はつらつ!!市町村職員

36 市町村振興協会たより

時の人

編集後記



表紙写真
「早川溪谷」

早川町の新倉地区から、奈良田地区まで続く、深く切り立った溪谷です。四季折々の自然の変化を楽しむことができます。特に紅葉の時期は奈良田方面へ向かえば向かうほど標高が高くなるため、周辺の山々や溪谷沿いの景色の変化を楽しむことができます。

【早川町提供】

「人が集い 和む 樹園共生都市

山梨市」の

実現へ

高木 晴雄

山梨市長



高木 晴雄（山梨市長）

PROFILE

昭和25年 7月24日 生まれ(72歳)
平成23年 4月 1日 株式会社タカギ取締役会長就任
平成23年 4月30日 山梨県議会議員初当選
平成29年10月 1日 山梨市長就任
現在2期目の市政を担う

山梨市は、人口34,000人余り、甲府盆地の東部に位置しています。

「世界農業遺産」に登録された農業とその風景、ブランド化が進む果実、「甲武信ユネスコエコパーク」に登録された豊かな自然、また、風土に根付いた文化や歴史等、特色豊かなまちです。

果樹農業を基幹産業とし、近年では、本市で生産されたシャインマスカットをはじめとする果物が、ふるさと納税の返礼品として全国の方々から好評をいただいております、その納税寄付額は県内2位の実績をいただいているところです。

コロナ禍のピンチをチャンスへ

本市をとりまく状況は、人口減少・少子高齢化に起因する諸課題や、長引く新型コロナウイルス感染症など、厳しいものがあります。一方で、いわゆるコロナ禍は、新たな生活様式を伴うビジネスモデルの変化や、新たな人の流れ等、本市にとつ

てチャンスとなり得る社会変容も起きております。困難を困難だけで終わらせない、ピンチをチャンスに変え、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、時代に対応した施策方針を定めるべく、本年3月に総合計画「第2期中期計画」を1年前倒しで策定しました。

当該計画では庁内横断的な目標として「感染症対応」「デジタル・グリーン社会」「効率的な行財政」を掲げ、特に「今やらなければならぬこと」について徹底的な選択と集中を行い、時代の変化にスピーディーに対応することを目標とし、既に今年度はコロナ対策事業の他、「小中学校教材費無償化」「妊活応援事業」「新規就農者への独自補助」等を開始したところです。

成長産業化を遂げる果樹農業

本地域の風土は、果樹農業と共に築かれてきました。果樹農業の発展は、本地域の豊かさを支え



山梨市駅上空から市北部の山々を望む

る貴重な礎であると考えます。

昨年度の県内新規就農者数は過去最多の321人となり、このうち60%以上が果樹農業への就農者であるとのこと。本市で栽培されるシャインマスカットをはじめとする果実は高単価で取引され、数年前までは「儲かる農業の実現」を目標としていたところですが、現在ではもう一歩進めた「成長産業化を遂げる農業」を目標としています。

域外からの新規就農者に対しては、本市では県内初の「農地付空き家バンク」や、自由度の高い市独自の補助金を用意しているところであり、「本気で新規就農するなら山梨市」を目指し、支援の拡充を図っております。

また、令和2年度に構造改革特区の「ワイン特区」を取得し、現在、市内において小規模ワイナリー



フルーツパークから富士山を望む

の参入が進んでいます。今後はワイナリーの参入促進と併せて、遊休農地を活用した醸造用ブドウ栽培等による農業振興、観光振興、地域経済の更なる活性化等とおしたブランド化を進めます。

あわせて本市独自の「プライベート無線ネットワーク」を活用したスマート農業も、全国の自治体から注目いただいているところであり、近年では農業分野以外にも、防災や福祉分野におけるデジタル技術による課題解決を図っております。

進む都市基盤整備

本年4月、市の玄関口である山梨市駅の南口広場が完成しました。令和元年の北口を含む新駅舎の竣工以降、待望の完成となり、駅を中心とした南北往来と回遊性が向上し、新たな賑わいと交流の拠点になるものと期待をしています。

ハード施策についてもソフト施策と連携させる中で、本市の特徴的な地形や産業を踏まえ、「人が和む樹園共生都市」の創造に向けた施策を推進しています。その筆頭プロジェクトと位置付けているのが「アザレアタウン整備構想」です。

アザレアタウン整備構想は、中央線沿線に広がる約20ヘクタールの地域を、市の新たな中心市街地として利活用を進める整備構想で、面的整備に合わせて「にぎわいのコア」となる商業施設や多世代が共生できる環境の創出として高齢者福祉施設・子育て支援施設などの誘致を行います。現在、県事業で進められている新山梨環状道路東部区間、並びに、中央自動車道勝沼インター及び一宮御坂インターへ繋がる基幹道路等の整備に合わせ、アザレアタウンが市内外の交流を育む地域となり、また、樹園共生都市の核として人口流入の受け皿になるものと確信しています。



市の玄関口としてリニューアルした山梨市駅(写真は北口)

さいごに

新型コロナウイルス感染症は、リモートワークやオンライン会議、また、キャッシュレス決済など、短期間でデジタル化への大きな変革をもたらしました。この動きのなかで、県内市町村では転出抑制及び転入増加の傾向が続いています。

この社会変容の中で、都市部の方々から山梨県内市町村の持つポテンシャルが改めて見直され、注目されるものと信じています。

今後山梨市は、たとえ大きな波が来ようとも、コロナ禍を踏まえた新たな生活様式や新たな人の流れを最大限プラスに転じ、時には関係する自治体とも連携させていただきながら、変化を恐れず職員と共に着実に前進していきます。

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

忍野村 49

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

忍野村の概況

忍野村は、山梨県の南東部に位置し、南西に壮大な富士山（3,776m）を仰ぎ、北に杓子山（1,598m）、東に石割山（1,413m）に囲まれた盆地で、総面積は約25平方kmであり、

持続可能な地域発展へ



お宮橋から望む春の富士山

標高は936mの高冷地となっています。村の人口は現在約9,700人（住民基本台帳より）、ここ数年は微増の状況で県内でも数少ない人口増加自治体となっています。

本村は富士山の眺望が良く、特に写真家岡田紅陽氏により「忍野富士」は広

く全国に知れ渡り多くのカメラマンが訪れています。また富士山の伏流水が八つの池に湧出する「忍野八海」は昭和9年に国の天然記念物、昭和60年には日本名水百選に、平成25年には世界文化遺産に登録された富士山の構成資産として位置づけられています。観光施

設としては「岡田紅陽写真美術館」、「小池邦夫絵手紙美術館」、山梨県立の淡水魚水族館である「富士湧水の里水族館」があり、多くの人で賑わっています。

本村の産業は古くから稲作、高原野菜の作付けが盛んであったが、現在は主にトウモロコシ、キャベツ等の高原野菜作りが行われています。一方昭和55年にCNC装置（工作機械用コンピュータ数値制御装置）及び産業用ロボットの世界的電機メーカーであるファナック（株）が本村に移転以来人口増となり、又税収の増加により普通交付税不交付団体となっています。（本年度は交付団体）



写真・絵手紙美術館外観（1つの建物に写真美術館・絵手紙美術館を併設）



世界遺産富士山の構成資産の一部 忍野八海 湧池

第6次忍野村総合計画

現村長が平成27年8月に就任したことから、1年前倒しを行い平成28年度より第6次忍野村総合計画（平成29年度～36年度）の策定を行いました。

「教育は未来への投資」、「インフラは村民の生活への投資」、「福祉の充実はお後の生活への投資」の考えの基、「希望をもって生活できる村の実現」を目指し、村民の住みやすい環境づくりを目標に掲げております。

人口ビジョン及び

総合戦略の策定

忍野村の人口は現在微増傾向となっており、今後についても当面この状況が続く可能性が高いと予想されます。よって今後の予想も人口1万人を目指し、ピーク時以降も1万人を維持することを目指す計画です。総合戦略については、「適正人口規模」についても勘案しながら将来目標である交通混雑の緩和、人材育成・教育施設の機能の拡充、農業振興の充実等の実現に向け施策の展開をしていかなければならないと考えています。



朝の体操をする忍野の子どもたち

増える観光客への対応



忍野八海近くに観光案内所を設置

平成25年に富士山が世界文化遺産に登録されたことに伴い、その構成資産である「忍野八海」への観光客数は外国人を中心に激増しております。そのため景観形成事業の実施（電線の地中化、看板や建物の修景、道路の美装化等）を行い、また新たに観光案内所を設置しきめ細やかな案内を心掛けております。さらに現在2か所のトイレの建て替えが完成し、気持ちよく世界中の皆様を迎えられるよう各整備を行います。

富士吉田忍野スマートインター

7月24日に大きなストック効果が期待されている東富士五湖道路「富士吉田忍野スマートインターチェンジ（IC）」が完成し、開通しました。

東富士五湖道路は、霊峰富士の裾野を走り日本有数の眺望を誇る高速道路であり、令和3年4月には国道138号須走道路・御殿場バイパス（西区间）が開通し、新東名高速道路と直接接続されたことで観光・物流を支えるより強力な広域道路ネットワークが形成されました。今回完成したスマートICは東富士五湖道路のほぼ中央部に位置し、「富士吉田市」に存しますが、名称に「忍野」を附していただいたことで、知名度向上と本村を目的地とする利用者の方に分かりやすくご案内できると考えております。

現在忍野村ではスマートICから村内へのアクセスを向上させる村道鐘山線の整備を進めております。相乗効果により移動時間の短縮が図られ、本村への滞在時間が増えれば地域の魅力をより深く感じていただけることに繋がると期待しております。

また、富士山世界文化遺産の構成資産に指定されている忍野八海は、神秘的な湧水池の持つ自然美と併せその歴史的・文化的価値を求めて春夏秋冬多くの来訪者で賑わっております。8月末には国土交通省から関東の富士見百景に選定

された富士山の眺望地「二十曲峠」の展望テラスが新たな観光拠点として完成し、地形を活かした通路型テラスとして秀麗な富士山と雄大な南アルプスを開放感あふれる大自然の中で楽しんでもいただけるようになります。これら村内の観光拠点ネットワーク化することで滞在型観光地への転換を目指した整備事業も着々と進んでおります。



スマートIC 開通式テープカット

二十曲峠展望テラス 「SORA no IRO」

既に、富士山眺望の名所として知名度のある二十曲峠に、さらなる魅力向上のため、第一段階として斜面に張り出した展望テラスを建設しました。

早朝においては眼下に雲海を眺め空に浮いているような、そのほかの場所とは違った絶景が楽しめる展望テラスとなっております。

利用者は、個人・ファミリー層が自家用車で来訪することを想定しておりますが、今後ハイカーや登山者、村民も憩える場所としての視点も含めた整備が必要であると考えております。



二十曲峠展望テラス～SORA no IRO～からの景色

また、併せてアクセス道路が狭いため、すれ違い場所の整備や周遊ルートの整備なども検討してまいります。

なお、二十曲峠は今回の展望テラスを第一段階として全体を公園化する計画であります。

この事業は、コロナ禍によって観光・旅行に対する傾向の変化にも対応していくと考えております。

現在、旅行や外出は、当面近場が主流で、自然や解放感のある場所が好まれる傾向が強いと言われています。

そこで、この社会情勢をチャンスとして捉えれば、忍野村の自然観光資源を活かしネットワーク化し、磨き上げること、来訪者が増え、さらには未来の新しいインバウンドを迎え入れる準備にもつながります。

忍野小学校建設事業

忍野小学校の校舎は本年の6月で築43年目を迎えました。その間に増築や改修を行い、その都度その時の状況に合わせて改善しながら使われていますが、建物の老朽化は顕著であります。

また、山梨県で推進しております25人学級も現在は1・2年生が対象であります。将来的には全学年の25人学級が推進されることが予測されており、現状のままでは教室不足が生じる状況であります。

更には、支援学級についても年々増加の傾向にあり、そのニーズに最大限

対応するため、教室数の確保は不可欠であります。

このことから、早期の忍野小学校の完成を実現するため、忍野小学校建設に係る文部科学省・防衛省及び関係省庁の補助金等の活用を図りながら、本年9月に第1期工事（児童棟・RC3階建て）を着工予定であります。



忍野小学校 イメージ図

結びに

今後も、現状に満足せず、忍野村らしさを大切にしながら持続可能な地域づくりを全力で進めてまいります。

歩くことのススメ

令和元年七月から三年間、甲府市で副市長として勤務いたしました。

その間、樋口市長はじめ甲府市役所のみなさんには大変お世話になりました。また、着任して半年後にはコロナ禍になってしまいました。こうふ開府500年当年の様々なイベントなどを通じて、多くの方々と出会い、貴重な経験をする事ができました。この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

私がこの三年間で最も印象に残っているのは、着任して一年目の年末に行われたこうふ生誕祭のフィナーレです。冬の大雨の中、参加者が一体となって大いに盛り上がりました。その時は、翌年の信玄公祭りをはじめ期待感がさらに高まりましたが、それ以降は多くのイベント等が中止になり、長引く自粛期間によりみなさんとの交流もままならなくなりました。

その一方で、自宅から眺めるどっしりと構えた富士山や、部屋を出るときに目に入ってくる勇壮な甲斐駒ヶ岳や鳳凰山の姿などは三年間変わることなく、今も目に焼き付いて

言言 提言

Kugen Teigen

上村 昇

Noboru Uemura

内閣府大臣官房審議官(防災担当)
(前甲府市副市長)



います。また、令和元年の台風19号やコロナ禍の影響で、甲府に赴任する際に楽しみにしていた南アルプスへの登山はかきませんでしたが、自宅から近い愛宕山には三年間通い、展望台からの甲府盆地とその背景の山々、斜面に広がるぶどう畑などを堪能しました。周囲には、歩いて登ったことがない人も多く、甲府駅から30分ほどで山頂に到達できるのもったいないと思いました。

私は、自宅周辺からだと手前の山に隠れて見えない八ヶ岳や北岳が、2kmも歩いて伊勢あたりまで南下すると姿を現したり、近くにある他の山々も少し歩くと形が大きく変わって見えたりと、その楽しさから、甲府のまちをくまなくといつていいほど歩きまわりました。

甲府にずっと住んでいれば、山に囲まれているのは日常の風景で、時間をかけて歩いて再認識するようなものではないのかもしれませんが。移動手段のほとんどが車となっている中で、歩くことを勧められても、「そうか」とはならないかもしれません。

さて、現在、甲府市では、甲府城南側エリアの整備が進められています。すが、つい最近になって新たな再開

発計画が公表されたという事実。将来的にこれらが完成すると、甲府駅から中心市街地までが完全につながるものになると思います。そして、この一帯が住民や観光客が行き交いにぎやかであれば、新たな集客施設が入り、さらに来訪者が増加するという正のスパイラルが、一朝一夕にはいかないかもしれませんが現実のものとなります。ただし、このシナリオが成り立つには多くの人々が「歩くこと」が欠かせません。

また、近年、災害が激甚化・頻発化しており、防災の視点からも「歩くこと」はより重要となっています。

さらに、甲府市内には、ここまで述べてきた山以外にも魅力的なスポットやコンテンツがいっぱいあります。その中には、昇仙峡のようにモデルコースが示されているものもあれば、こうふ開府500年レガシー事業「私の地域・歴史探訪」で市民のみなさんがあらためて調べなおした神社仏閣といった身近なものも多くあります。甲府盆地は夏暑く、冬寒いことは承知していますが、時間に余裕があるときには思い思いにまち歩きをしてみたいかがでしょうか。